

研究発表(要旨)

洋画を活用した英米文学への取り組み

西武文理大学 鈴木 政浩

本発表は、武蔵野大学で2003年4月から2004年1月まで担当したReading1-A, 1-B(英米文学)の報告である。洋画の視聴と原典の朗読練習。さらに翻訳を活用した原典の翻訳活動に取り組みを経て、各自が作品を決めてレポート執筆に取り組みプロセスと、レポートを冊子として学生に手渡すまでをまとめた。

年間の授業の流れ

1. 洋画視聴と原典の朗読練習

取り上げたのは、レオナルド・ディカプリオ主演のWilliam Shakespear's Romeo + Juliet。場面を現代に移しているにもかかわらず、この作品には原典のセリフがあちこちにちりばめられていて、物語の概要をつかんだ上で、原典に直接触れるための格好の素材となる。

視聴後は洋画のTranscriptを元に原典を読み進める。原典の一部とその部分の翻訳をプリントして配布する。朗読練習と英文の解説の後、翻訳をじっくり読みながら学生オリジナルの試訳を作らせ、完成した学生からまわりの友だちと交換しながら校正作業に取り組む。授業の最後には学生1人1人と呼び、その日に授業で取り組んだ英文を朗読し、簡単な発音指導をした。

2. 課題作品の決定

1.の活動がある程度定着したら、レポートに取り上げる原典を決めさせた。その前に以下のような準備作業を行った。

- 1) メールアドレス登録：学生から教員宛にメールを送らせ登録する。
- 2) タイトル申請と登録取り上げたい作品について、原典・翻訳書・洋画の3点が入手できるか確認。確認ができた時点で作品名をメールで申請
- 3) 学生用に公開するホームページ上に申請された作品リストをアップロードし、逐次参照させる。

作品を決定する上で最も困ったのがビデオやDVD探しである。映画化されていてもすでに入手できないものが少なくなかったためである。そこでTsutaya Discas(レンタルビデオ大手Tsutaya)のページを活用するとともに原典や翻訳書購入にはAmazon Japanのホームページや、全国公共図書館等の蔵書検索サイトなどを活用させた。

3. レポート作成

洋画を視聴して概要を把握した後、翻訳書を通して読む。その際自分をもっとも感動したり考えさせられた部分を記録する。その後原典から記録した部分をさがし、その部分の翻訳に取り組ませた。

まず学生用に公開しているホームページからフォーマットをダウンロードさせる。レポートの内容は次の6点である。

- 1) 作品タイトル(原題・邦題)、原作者・監督・主演・発表年等
- 2) 原作者についての解説(代表作品やその生涯について)
- 3) 原典のあらすじ
- 4) 洋画と原典との比較
- 5) 取り上げる場面の解説
- 6) 取り上げる部分の引用とオリジナルの翻訳

4. レポートの校正作業

レポートはメールに添付して提出させるとともに、プリントアウトしたのも授業中提出させた。これを受講生に校正させるとともに、コメントをつけさせた。ポイントは次の通り。

- 1) 原典を転載した部分の誤植
- 2) 日本文の誤字脱字・変換ミス等
- 3) 翻訳部分へのコメント(翻訳書の引き写しになっていないか、直訳でなく独自の解釈やオリジナリティー、工夫は見られるかなど)
- 4) その他の部分に対するコメント
5. 印刷所へのデータ送付から冊子の納品

こうしてできあがったレポートのデータを印刷所に送り製本。費用としては1冊あたり1,500円以下でできる。すべての学生が前期にレポート1本、後期に1本。合計2本のレポートを書いたため合計50以上の作品のレポートが1冊の冊子となった。